

少子・高齢化に関するアンケート 集計結果

たけまさ公一事務所で活動しているインターン生です。この度は私たちの共同研究に関するアンケートにご協力いただき誠にありがとうございました。皆様のご意見が鍵となり、私たちの研究を深めることができたように思います。つきましてはアンケート結果を下記のようにまとめましたのでご確認いただけますと幸いです。

実施期間: 8月12日～9月12日

回答数: 216件

集計結果:

質問1.あなたは身の回りで子供が少なくなったと感じることはありますか。

感じる 66.5%(143人) 感じない 19.5%(42人) わからない 14%(30人)

質問2.あなたは高齢の方が増えたと感じることはありますか。

感じる 84.7%(182人) 感じない 7.4%(16人) わからない 7.9%(17人)

質問3.少子高齢化が自分の仕事や生活に対してどの程度影響を及ぼしていると考えますか。

全く影響していない 6%(13人)

わずかに影響している 11.2%(24人)

そこそこ影響している 21.4%(46人)

ある程度影響している 35.8%(77人)

大いに影響している 25.6%(55人)

質問4.上の質問に対しての回答の理由をお答えください。

10代・20代に関しては、生活圏内や学内に子どもや高齢者がいないためにニュースでは聞けられど実感しないという意見も見られたが少数派であった。少子高齢化を実感する理由としてアルバイト先や職場において若い客層が少なく、同僚にも若い人が少ないことが実感する側の意見であった。社会保険料を払い始めることによって年金について意識するようになり、その負担が増加する不安や自分たちが満足に年金を得られるのかを不安視する声が多く聞かれた。

30代・40代についても20代と同様に年金負担額の増加及び自分の受け取る年金の額を不安に思う声と、それに加えて新入社員や後輩がいないという声も多く聞かれた。どの業界においても労働力不足であることから経済の先行きを不安視する声も聞かれた。

50代以降の年代も前述の年代と同じように経済の縮小及び国際競争力の低下について言及する方が多かった。50代においては子どもと高齢者どちらともかかわらないためこの問題にピンと来ていないという声もある一方、自身や身内が高齢者層に移行するにあたって自分ごととしての自覚が生まれたという声もあった。自治会等任意団体への参加率の低さや若手の参加率が下がったために地域のイベントが消えた事など若年層の減少が地域に招く問題について言及する声も見られた。

質問5. 少子高齢化は深刻な問題だと思いますか。

深刻だ 90.7%(195) 深刻でない 2.3%(5) わからない 7%(15)

質問6. 上の質問に対してなぜそのようにお考えになりますか。

どの年代にも共通して労働力不足による現若年層への負担の増加を不安視する声が挙げられ、ある方は負担増加が未婚率の上昇を強める可能性もあるという。

10代・20代には「深刻だ」を選んだ人が多く、理由として労働力不足に起因する年金問題や、親世代からの高所得を求める強いプレッシャーのために若者が思い切り夢に向かって進むことができないことなど自分たちの所属する若年層にこれから待ち受ける負担を強く問題視する声が多かった。現役高齢者が増えると高齢化した政界が維持され若者の意見が反映されないままと予想する声もいくらか見られた。

30代・40代からは現在の子どもたちへの将来の負担だけではなく、自分たちの世代の負担も増え続けているという意見が見られた。依然として労働力不足を嘆く声が多く、それに対しては日本人の人口増加で対応したいという声も見られた。

50代以降からは、若者の生活困難、現行の制度の限界、労働力不足、企業の衰退も含む経済の停滞、そして地域コミュニティの衰退など、あらゆる面で深刻な影響を及ぼしている。将来への不安と、抜本的な対策の欠如への危機感が多く聞かれ、世代を超えた協力と制度改革を求める声も多数ある。

質問7. 今の日本はどれくらい結婚しやすいと思いますか。

全く結婚しにくい 12.1%(26人)

結婚しにくい 46%(99人)

ある程度結婚しやすい 27%(58人)

結婚しやすい 13%(28人)

とても結婚しやすい 1.9%(4人)

質問8.上の質問についてなぜそのようにお考えになりましたか。

10代20代の若者世代では結婚は必須ではないという意識が強く10代は結婚する実感がわかない。主な背景は「経済的不安」「キャリアとの両立の困難さ」「制度面の不足」である。一方で新しい出会いの手段や「必須ではないからこそ気楽にできる」という意識は結婚を後押しする要因になっている。30代40代では経済的不安・子育て負担に関する否定的意見が多いが「結婚は必須ではなく自分の環境や意思次第で選べる」という結婚観が見られる。50代、60代では「経済的不安」と「出会いの場の少なさ」を大きな課題と捉えている。自立した生活ができているため結婚は必須ではないという考えもある。70代80代では「経済的不安」と「出会いの機会減少」を強く意識している。過去(仲介人や地域のつながり)と比較し現代の若者は結婚しづらい環境にあると考えている。若者が一人の人と付き合う忍耐力がないという世代的な意見も見られる。全体としては若者は「結婚の必然性の低下＝選択肢の拡大」と捉える一方、年齢が上がれば上がるほど結婚＝負担・不利」と考える傾向がある。

質問9.選択的夫婦別姓についてどうお考えですか。

賛成 57.9%(124人) 反対 25.7%(55人)

その他 16.4%(35人)

優先度が低くあつたり必要性については議論できないであつたりという声が10ほどきかれた。学者や特定の職業の人など、かばねが変わることによって不利益を被る人はその権利を得るべきだという声もあつたが、主に制度の作りこみが足りないことで見込まれる混乱に対する不安を理由として批判的に見ている声もあつた。

質問10.アンケートやご自身のご意見、お考え等ありましたらご記入ください。

回答略

質問11.最後に差し支えなければ御年齢、性別を教えてくださいまして幸いです。

年齢

10代 19.5%(41人) 20代 31%(65人) 30代 11%(23人) 40代 10.5%(22人) 50代 13.8%(29人) 60代 6.7%(14人) 70代 4.3%(9人) 80代 3.3%(7人)

性別

男性 47.1%(98人) 女性 50%(104人) 未回答 2.9%(6人)